

内 視 鏡 室

胃・十二指腸検査による患者の苦痛軽減の援助

発表者 横山 此の笑

内視鏡室一同

現在、消化器特に胃の診断学は我が国に於て急速に進歩し、世界のこの方面をリードしています。消化器の診断にはX線内視鏡、生検の三者によっていますが、生検も又操作では内視鏡を用いますので内視鏡のもつ臨床的意義は極めて大きく殊にグラスファイバーの利用は此の領域の拡大に大きな進歩をもたらしました。

信大では、中央化した内視鏡室が比較的早やくより設けられ、現在内視鏡ベッド3台及び別室に直腸鏡用の設備が設けられ、現在各科からの気道、消化管を主体とした内視鏡の要請に応じて検査をおこなっております。使用しているファイバースコープ類は、気管支、食道、胃、十二指腸、及び大・小腸の各部に用いるもので、更に生検、洗滌等の応用操作を加えたものもあり機種として総数12種にも及んでおります。

動 機 と 目 的

内視鏡検査は、一般の人になじみが少ないためか、特に初診者では、術前に検査への不安を訴える患者も多く、病気への心配も重なって検査の操作に支障をきたす事もあり、適切な介助が求められます。又予想以上に苦痛を訴える患者も多く、それ等を少しでも軽減援助できる様過去に於ける統計をもとに参考とし、特にその中で訴えの最も多い胃、十二指腸ファイバースコープの検査をうけた患者へのアスケートをこころみしてみました。

統 計

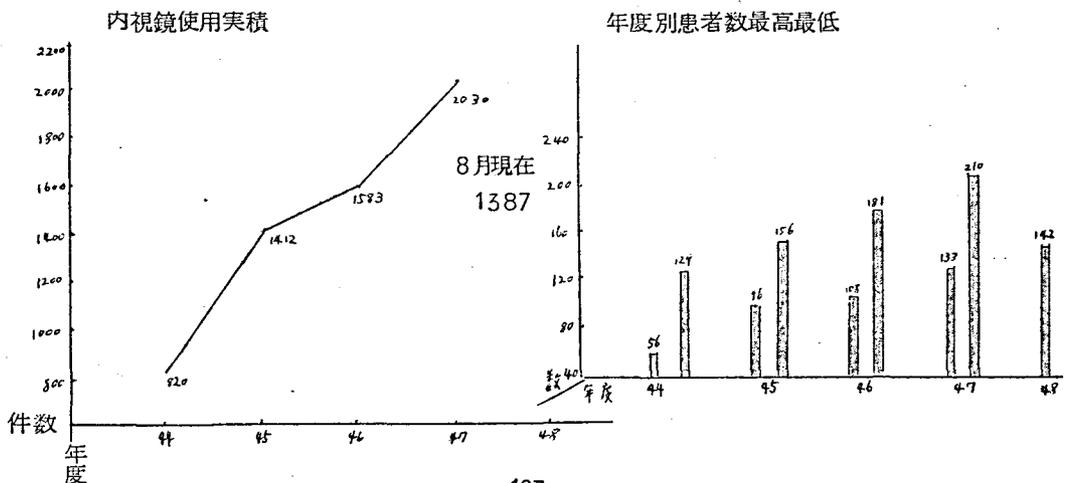


図1 内視鏡使用実績

図の如く検査は急げきに増加しており検査内容も多様化しております。

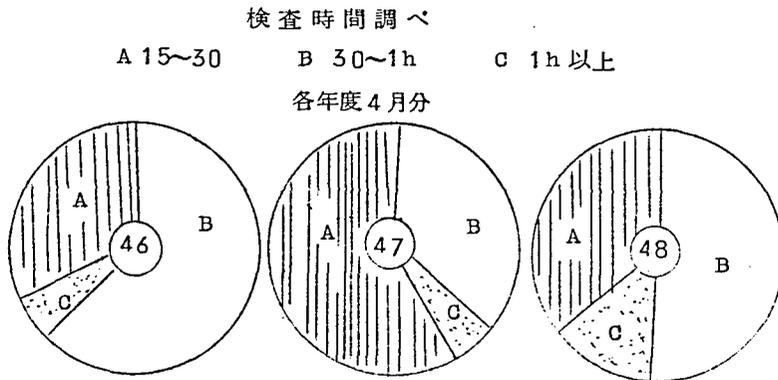


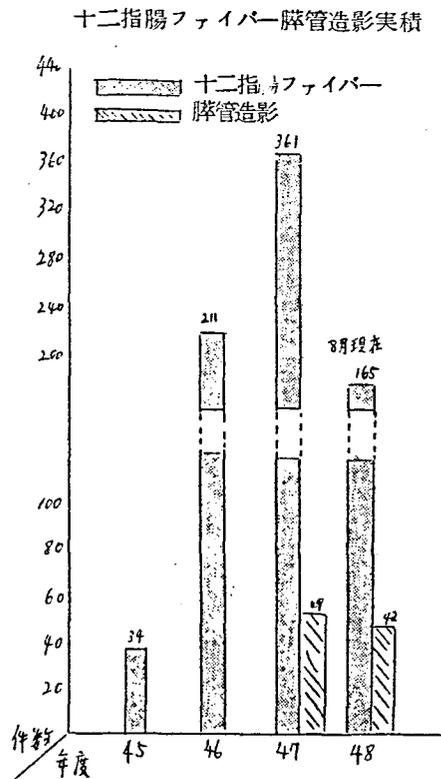
図2 検査時間調べ

各年度4月分のみ抜粋してみました。

46年度Bが多いのは当時洗滌・細胞診が多くおこなわれていた為です。最近ではほとんど行なわれておりません。47年度ではAの方が多く48年度ではB、Cの方が多く検査内容も多様化しております。

図3 十二指腸ファイバー隣管造影実績

隣管造影は本年に入り急げきに増加しております。



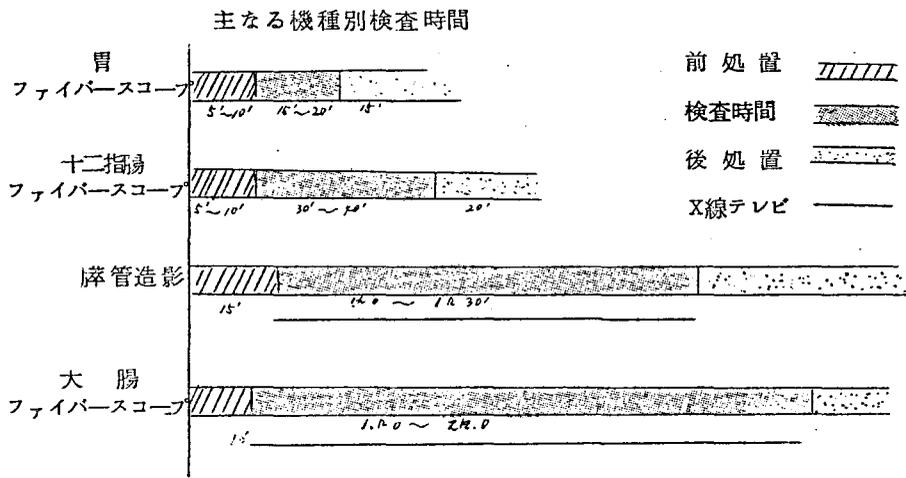


図4 主なる機種別検査時間

胃ファイバーと十二指腸ファイバーの前処置は同じですが、検査時間は大きく違っております。膵管造影では必要器具の準備に時間をとられます。X線テレビ透視下でこまかな操作がおこなわれ、検査時間も長く患者の苦痛も多く後処置も外来で点滴が行なわれます。大腸ファイバーでは前後の処置はほとんどありませんが検査時間は長くX線テレビ透視下でおこなわれます。

図5 アンケート用紙 男 女 年齢 才 カメラ

私達は皆様はどうしたら楽に検査を受けられるか調べたいと思いますので御協力をお願いします。 必要な個所に○印をつけて下さい。

- | | |
|--|---|
| <p>1. どういう検査か知っていましたか
ハイ イイエ</p> <p>2. どうして検査を受けることになりましたか
イ 自分から希望して ハイ イイエ
ロ 他の病院で云われて ハイ イイエ
ハ 大学病院で診察の結果 ハイ イイエ
ニ その他</p> <p>3. 検査に対する不安がありましたか
ハイ イイエ
イ <input checked="" type="radio"/> 眠れない程の
ロ ハイ 病気の事を考へて
ハ ハイ その他</p> <p>4. カメラを入れる時先生の説明が納得できませんでしたか。
ハイ <input checked="" type="radio"/> イイエ
イ イイエ どんな事が納得できませんでしたか。</p> <p>5. 検査中に看護婦がそばに居てほしいと思いましたか。 ハイ イイエ
イ <input checked="" type="radio"/> 不安なため
ロ ハイ その他</p> | <p>6. カメラをのみこむ時苦しかったですか
ハイ イイエ
イ <input checked="" type="radio"/> 大変苦しかった
ロ ハイ 思っていたよりらくだった
ハ ハイ 楽だった</p> <p>7. カメラをのんでいる時間が長いと思いましたか。 ハイ イイエ
イ ハイ 吐気がありましたか ハイ イイエ
ロ ハイ 不快感がありましたか ハイ イイエ
ハ ハイ 痛みや熱感がありましたか ハイ イイエ</p> <p>8. カメラをどんな風に感じましたか
イ <input type="checkbox"/> 怖い ハイ イイエ
ロ <input type="checkbox"/> 太い ハイ イイエ</p> |
|--|---|

アンケート結果 I

	男	女	不明	計
1. どのような検査か知っていましたか				
ハイ	18	17	4	39
イイエ	2	1	3	
2. どうして検査を受けましたか				
イ 自分から希望して	2	4	6	
ロ 他の病院で云われて	4	3	1	8
ハ 大学病院で診察の結果	11	9	8	28
3. 検査に対する不安がありましたか				
ハイ	8	14	5	27
イイエ	6	2	6	14
イ 病気の事を考えて	10	7	3	20
ロ 眠れない程の不安でしたか	10	7	4	21
4. 看護婦がそばに居てほしいと思いましたが				
ハイ	6	14	5	25
イイエ	8	3	11	

アンケート結果 II

	男	女	不明	計
5. カメラをのむとき苦しかったですか				
ハイ	9	15	4	28
イイエ	6	1	7	
イ 大変苦しかった	4	9	13	
ロ 思っていたより楽だった	6	3	3	12
6. 検査時間が長いと思いましたが				
ハイ	15	12	4	31
イイエ	3	3	3	9
イ 吐気がありましたか	6	11	3	20
ロ 不快感がありましたか	6	9	3	18
ハ 痛みや熱感がありましたか	3	5	8	
7. カメラをどんな風に感じましたか				
こわい	3	8	5	16
太い	11	10	2	23
8. 検査前の説明が納得できましたか				
	18	17	6	41

アンケートの方法

アンケートの人員は主として始めて検査を受けた人を対象にし50名実施致しました。期間は昭和48年5月～6月迄の2ヶ月間としました。検査終了後医師の説明をうけるまでの待ち時間を利用して書いてもらいました。

回収率は100%でしたがアンケートとらないものが16%ありました。

結果 表I・表II

表I・IIの数字は人員を表わしております。不明の欄は男・女の区別が不明という事です。機種別では、胃ファイバースコープ28名十二指腸ファイバースコープ9名、生検用ファイバースコープ5名回答がありました。

男女別ではそれぞれ半々の回答があり女子の方が検査に対してこわい印象を強くもっており、検査中介助してほしい等の気持が現われておりました。男子にもわずかながら女子同様の訴えがみられ、ファイバースコープは男女共太いという異物感を一緒にいただく事がわかりました。

考 察

統計及びアンケートの結果、技術的には医師の分野であり、私達は精神的な面で苦痛軽減を援助する事が必要と思われ、日常業務の中で内視鏡へ患者さんを迎えた時よりできるだけ声をかける。朝の挨拶をし患者の状態を把握し乍ら話しかけます。前処置をし乍ら検査に対するオリエンテーションをおこないます。

通りいっぺんの説明でなく気持ちをほぐす様、知人に話す様にします。検査の前にまず衣服をゆるめ、ベット上に仰臥位をとり、腹式呼吸を練習させ緊張をとります。次にいよいよ検査に入ります。左側臥位となり頸や肩の力を抜く様に説明し介助します。大きく口をあけて舌を出しファイバーが挿入されます。この時が一番肝心で多くの患者はのけぞるので手際よく頭部をささえます。苦しまぎれに医師の白衣にしがみついたり、自分で引きぬこうとしたりしますので、患者に声をかけ援助します。検査終了後は医師より説明があります。各科或は家人に連絡し適切な指示を行い帰っていただきます。又患者さんの安全を第一に考へ、必らず1人で帰さない様にしています。又手術不可能の結果がでる場合もあり、患者・家族に対しての言葉・動作に注意しております。一日に数科の医師が使用しますので、患者の待ち時間を少なくし不安感を除くために使用する器械を順序よく扱う事も大切と思われ予約時間を守っていただく事を随時医師に要請しております。又大きな器具を使用する検査であり特に検査が多様になってきている現在、器具及びその取扱いを充分知っている事が痛感されました。此の点で専任者の定められている現状を自分達なりに評価しております。

お わ り に

アンケートは当初予定より少なめになってしまった事。方法をもう少し検討すべきでありました事等不十分でしたが、毎日が検査というマンネリ化し易い業務の中で常に看護という事を忘れないでより一層努力したいと思います。尚御協力下さいました方々に感謝しまして発表を終ります。